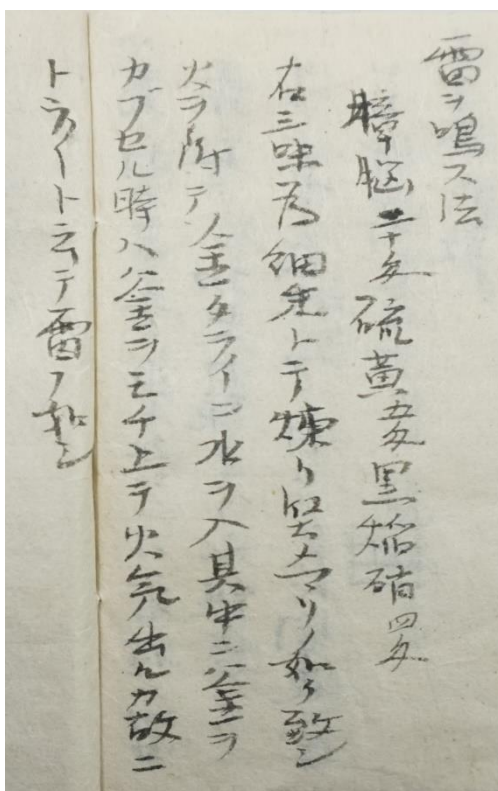


## おもシロ！城郭つうしん 第2回

### 芥川家文書（その2）＜カミナリを鳴らす法！？＞

第2回は、前回とりあげた「芥川家文書」の「秘伝方ひでんほうの口書くちがき」の中から、何とも不思議な忍者の秘伝を取り上げたいと思います。

それは「雷ヲ鳴ス法」です。カミナリを鳴らすとはどういうことでしょうか。さっそくその部分を見てみましょう。



雷を鳴らす法（現代語訳）

樟脳しょうのう二十匁、硫黄りゅうおう五匁、黒煙硝くろえんしょう四匁

右の三味は細かい粉なので、練り固めてまりのようにし、

火をつけて金タライに水を入れてその中に釜を

かぶせる時は釜を持ち上げて火気が出るので

「とうとう」といって雷のようである。

樟脳しょうのうは虫よけの薬に使われます。硫黄りゅうおうはご存知の通り発火性のあるものです。黒煙硝くろえんしょうとは黒色火薬のことです。この3種類を練って固めて「まり」のようにすると書かれています。ここまではテレビなどで忍者が雲隠れに使う煙玉のような感じがします。

これに火をつけて、水の入った金かなダライに入れて釜をかぶせ、釜を持ち上げると爆発が起こるようです。そうしますと音が鳴るわけですが、「とうとう」という表現を使って、雷のようだと言うのは面白いと思います。おそらく爆発音によって敵を驚かせたり、あるいは護身用の爆弾か、武器として使われたものではないかと考えられます。「芥川家文書」には、まだ数多くの秘伝が残されています。